

第2章 「千葉方式」による県民が主体的に参画した環境保全の取組

千葉県では、自立した地域社会を築き、それを内外に誇りをもって提示していく「千葉主権」の確立を目指し、既成の発想や概念にとらわれない独自の取組として、「徹底した情報公開と住民参加」を強力に進めてきました。

特に、千葉県で行ってきた「住民参加」は、「住民が主体的に取り組むタウンミーティング」などにより、計画策定等に関し「白紙の段階から県民の方々に参画いただく」ことを特徴としており「千葉方式」と呼ばれています。

これまで千葉県では、NPOの推進指針や高齢者・障害者の計画、次世代育成の計画など、この「千葉方式」によって策定してきましたが、「生物多様性ちば県戦略」はもとより「千葉県環境基本計画」や「千葉県環境学習基本方針」の策定についても、「千葉方式」により進めるとともに、住民参加による各種環境保全の取組を進めています。

1 千葉県環境づくりタウンミーティング

「千葉県環境基本計画」、「生物多様性ちば県戦略」、「千葉県環境学習基本方針」などの策定や見直しに先立ち、「千葉県環境づくりタウンミーティング」が開催されました。

開催にあたって、18年9月にタウンミーティングの実行委員会に参画していただける団体・市民を広く募集したところ、40を超える市民・NPO等の団体が集まり、実行委員会が組織されました。

タウンミーティングは、10月から12月の3か月間に県内各地（15地域）で20回開催され、1,200名を超える方々の参加をいただきました。規模は10人程度のものから200人を超える大きなものまであり、ラウンド・テーブル・ディスカッションや基調講演に基づく討論会、ワークショップとシンポジウム、さらにKJ法による意見集約まで、多種多様な方法で地域の課題整理が行なわれました。



（松戸市市民センター）



（千葉県立中央博物館）



(柏市市民活動センター)



(佐原中央公民館)

さらに、12月23日にはそれまで行われたタウンミーティングの総括大会として、各地域のタウンミーティングからの報告などが行われ、地域における課題整理を深めていただきました。



千葉県環境づくりタウンミーティング
総括大会(平成18年12月23日)

このように、地域ごとにいくつかの環境にかかわる市民・NPO等が協働して実行委員会を組織し、タウンミーティングが開催されたことにより、これまではほとんどつながりのなかった団体同士が情報交換を行うなど、相互の関係を強化する役割も担ったといえます。

2 新たな環境基本計画の策定

(1) 背景

環境基本計画は、環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、千葉県環境基本条例により、策定が義務付けられている計画です。

この計画は千葉県の環境施策のマスタープランとして位置づけられ、計画に基づき環境への負荷の少ない社会の実現を目指した施策を総合的に推進しています。

現在の環境基本計画は環境基本条例の制定を受け、8年に策定されましたが、地球温暖化問題をはじめとしてその後の環境問題をめぐる著しい状況の変化に対応するため、新しい環境基本計画を策定することとしました。

(2) 千葉県環境基本計画策定委員会

19年2月に、幅広い分野での意見を伺うため県民・事業者・学識経験者・行政関係機関からなる策定委員会が設置されました。

委員会では、知事からの諮問を受け、タウンミーティングでのご意見を踏まえながら、計画の基本的事項、今後の環境政策の視点や施策の展開方向など計画案についての検討が進められてきました。19年3月から10か月間にわたる検討を経て、20年1月には計画案がとりまとめられ、1月24日に知事へ答申されました。



(策定委員会)



(計画案の答申)

(3) 計画の策定

策定委員会からの答申を踏まえ、2月に県として計画案をとりまとめ、千葉県環境基本条例に基づき千葉県環境審議会へ諮問するとともに、県民からのご意見を募集するためパブリックコメントを実施しました。さらに、パブリックコメントでいただいたご意見を踏まえ、環境審議会の答申を経て、成案となります。

3 ちばCO₂CO₂ダイエット計画の推進

地域から地球環境の保全の取組に貢献するため、千葉県では、12年度に策定した「千葉県地球温暖化防止計画」を18年6月に改定しました。

県民の皆さんに“こつこつ”とした取組をしていただくよう呼びかけるため「ちばCO₂CO₂ダイエット計画」という愛称をつけました。

また、計画の確実な推進のため、事業者や公募した県民などさまざまな主体で構成する「ちばCO₂CO₂ダイエット推進県民会議」により進行管理を行うとともに、新エネルギー等の導入促進や森林吸収源の確保などの10の重点プロジェ





ちばCO₂CO₂ダイエットファミリーキャンペーンの成果・記念として行われた苗木植樹イベント

クトを中心に取り組んでいます。

特に、環境に配慮したライフスタイル・事業活動の促進プロジェクトでは、千葉県地球温暖化防止活動推進センターや千葉県地球温暖化防止活動推進員と連携しながら普及啓発を行っています。

19年度は、千葉県地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣する「ちばCO₂CO₂ダイエット出前講座」の充

実や県民に家族ぐるみで身近な電気・ガスなどの使用量の削減にチャレンジしてもらう「ちばCO₂CO₂ダイエットファミリーキャンペーン」を展開しました。

このような輪が千葉県内にどんどん広がるように、今後も県民の皆さんに働きかけていきます。

4 環境学習基本方針の策定と展開

県では、全国的にも早く4年3月に「千葉県環境学習基本方針」を定めて、県民が自主的に学習活動を実践していくことを目標に、指導者の育成など総合的な取組を進めてきました。

こうした中、身近な都市・生活型から地球規模の地球温暖化や生物多様性など、環境問題が複雑多様化し、環境学習を取り巻く状況が大きく変化していることから、地球温暖化防止、生物多様性の保全等、持続可能な社会づくりのための、新しい「千葉県環境学習基本方針」を策定しました。

策定に当たっては、18年11月から12月にかけて県内各地で開催された「環境づくりタウンミーティング」を主催した方々を中心に、「環境学習基本方針をつくろう会」が組織され、作業部会およびネットワーク会議準備会ができ、県民参画による方針の素案づくりが行われました。

また、「つくろう会」の主催で、パブリックコメントの開催に合わせた説明会が開催

されるなど、この基本方針は千葉方式で実現できた計画のひとつといえます。

計画の推進にあたっては、県民、学校、事業者、行政など環境学習に取り組む各主体による連携・協働した環境学習を推進することが重要であることから、各主体で構成する「ちば環境学習ネットワーク会議」を設置し、環境学習の推進に努めていきます。



5 3Rの推進

「3R」とは、「リデュース：ごみを減らす」、「リユース：繰り返し使う」、「リサイクル：再び資源として利用する」という、ごみの減量と再資源化を図るために取り組む3つのRを表しています。県では、県民、関係団体等と協働して3Rへの取組を目指したイベント等を実施し、一人ひとりが「3R」を実践する環境に配慮した循環型社会づくりを目指します。

(1) レジ袋削減検討会議

「誰もが、身近で、簡単に」実践できるレジ袋の削減を、全県的に推進するため、消費者・事業者・行政で構成する「千葉県レジ袋削減検討会議」を設置し、20年1月18日に第1回の会議が開催されました。



この会議で、具体的な取組の方向性や取組手法等を決定し、レジ袋の削減に取り組んでいきます。

(2) 3R推進シンポジウムちば～どう減らすレジ袋～

レジ袋削減への県民の理解を深めるために、19年10月24日に柏市のアミュゼ柏において、柏市と共催で開催しました。

3Rをテーマにした環境省3R推進マイスターの和田由貴氏による基調講演、事業者・消費者・行政のレジ袋削減に向けた取組事例の発表や意見交換会等を行い、「各主体が連携して取り組むことが効果的であり、一人ひとりができることから始めよう」と呼びかけました。



大学生も参加した意見交換会

マイバッグの展示と風呂敷の
包み方実演



(3) 八都県市3R学生サミット

八都県市廃棄物問題検討委員会（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市）の3R普及促進事業の一環として、19年9月9日に幕張メッセ国際会議場において、学生が企画・運営する八都県市3R学生サミットが開催されました。

このイベントでは「さあ、しよう！再使用！」をテーマに、エコバッグなどのリユースグッズの学生デザインコンペ、リユース容器普及のための方策についてのパネルディスカッションが行われました。



マイバッグ部門



マイタンブラー部門

パネルディスカッション



リユースグッズの学生デザインコンペ グランプリ作品

(4) ちば環境再生基金によるNPO・市民団体等への支援事業

菜種油などの搾油体験などを通じた資源循環型社会づくりの体験、学習を实践するNPO・市民団体等の活動を支援し、資源循環型社会の形成の基盤づくりを推進しています。



菜種油の搾油体験をする子供たち